

爬虫類

ここでは、トカゲ目のヘビ類、トカゲ類とカメ目のカメ類を扱う。神奈川県内のこれらの動物については、田代道弥氏による箱根(田代, 1976)、柴田敏隆氏による三浦半島(柴田, 1968)、丸山一子氏による二宮町(丸山, 1990)、座間市(丸山, 1993)などの調査結果が報告され、分布に関する情報が蓄積されてきた。神奈川県内で今まで記録された爬虫類は海産の種および帰化逸出種も含めて11科24種であり、その地域別の記録一覧とレッドデータ度などを表9に示した。なお、和名および学名は環境庁自然保護局野生生物課(1993)によった。また、偶発的に漂着するウミヘビ類、ウミガメ類および帰化逸出種については、レッドデータ度の評価は行っていない。

評価の対象となった13種は、危惧種2種、減少種6種、健在種5種と判断された(表3、総論116頁参照)。

カミツキガメ科 Chelydridae

逸出種1種のみが記録された。

イシガメ科 Emydidae

在来種としてイシガメ1種が記録され、危惧種と判断された。なお、クサガメも自然分布である可能性があるが、もともとは西日本原産で、愛玩用に飼育された個体が放されて野生化したとの見解(高島・田代, 1962; 柴田, 1968)に従い、ここでは国内帰化種として扱う。

○イシガメ *Mauremys japonica* (Temminck et Schlegel) [危惧種E]

本州以南に分布する淡水性のカメで、池や沼、流れのゆるい川などに生息する。クサガメと同様に幼体が愛玩用に飼育され、野外に放されることも多いので、現在野外で見られるものが野生の個体かどうかには問題がある。神奈川県では、かつては各地の池で普通に見られたと思われるが、確実な記録は少ない。柴田(1968)によれば、三浦半島では横須賀市野比の反の田の池、長沢の四ツ田の池と杉釜の池には完全に野生状態のものが生息するという。麻生区王禅寺(北川, 1987)、鎌倉市源平池(柴田, 1986)、逗子市田越川(鈴木, 1987)でも記録されている。また、他の地域でも、過去にカメ類がいたという情報は多いが、それが本種であるか、クサガメであるかの判断は難しい。現在では生息記録が少なく、減少が目立つ原因としては、水辺がコンクリートで護岸されて産卵に適した環境がなくなったこと、水質汚染などが考えられる。また、ミシシッピーアカミミガメが増加したことも本種の減少の原因となった可能性がある。中村(1981)は神奈川県内の8ヶ所の池や川からミシシッピーアカミミガメの生息を報告しているが、そのうちイシガメと混生していたのは鎌倉市源平池の1ヶ所のみ、クサガメと混生していたのは3ヶ所であり、他の場所はミシシッピーアカミミガメのみが見られたという。この報告は、現在でもカメ類が生息できる条件の場所があっても、帰化種である同種が占めている状況を示している。

ウミガメ科 Cheloniidae

相模湾沿岸ではウミガメ類として、オサガメ科のオサガメを含めて合計4種の記録があるが、アカウミガメを除く3種は偶来種であり、産卵の可能性もないので、ここでは扱わない。アカウミガメは危惧種と判断された。

○アカウミガメ *Caretta caretta* (Linnaeus) [危惧種E]

アカウミガメは、大洋を広く遊泳しながら生活するウミガメ類で、本州中部以南の砂浜に上陸して産卵する。関東近辺では静岡県御前岬などが定期的な産卵地として知られている。かつては、相模湾の砂浜にも産卵に訪れる個体が相当数あったようで、内田至氏によると、昭和30年代の初めには湘南海岸は有数な産卵場で、片瀬、腰越などに毎晩数頭が上陸し、七里ヶ浜、平塚海岸にも上陸が見られたという(内田至氏私信)。柴田(1968)は「例年、夏季鎌倉海岸へ夜間産卵に上陸する」と記している。また、丸山(1990)は、二宮町では西湘バイパスができる前はよく上陸が観察されたとの聞き取りを記録している。しかし、産卵に関わる具体的な記録は少なく、城ヶ島(1961. 7. 26稚ガメ)、小田原市酒匂川河口付近(1960. 9. 3稚ガメ)(以上柴田, 1968)、鎌倉市七里ヶ浜(1967. 9. 28稚ガメ)(柴田, 1986)などがあるに過ぎない。近年はこうした産卵上陸はきわめて稀になっているが、1977年6月21日に小田原市南町の海岸で産卵(1977. 6. 23付神奈川新聞)、1978年8月に三浦市内で産卵(1978. 9. 9付神奈川新聞)、1991年に茅ヶ崎市菱沼海岸で産卵が確認され、市民グループの保護活動によって少なくとも1匹の稚ガメが孵化(1991. 10. 2付毎日新聞)、1983年7月23日に三浦市南下浦海岸で産卵(1983. 7. 23付神奈川新聞)の例が新聞報道されている。アカウミガメがほとんど産卵上陸をしなくなった原因としては、道路の建設や波による侵食のために砂浜が消失したこと、照明や人出のために産卵可能な静かな環境の海岸がなくなったことがあげられる。また、砂浜への自動車の乗り入れも、轍が稚ガメの移動に障害となる。

オサガメ科 Dermochelyidae

オサガメ1種が記録されているが、偶来種なのでここでは扱わない。

スッポン科 Trionychidae

スッポン1種が記録されており、自然分布の可能性も否定できないが、分布の中心が西南日本であること、しばしば飼養されていること、県内での観察例が人為的な影響の大きい池に限られていることから国内帰化種と判断した。

ヤモリ科 Gekkonidae

ヤモリ1種が記録された。この種は古い市街地を中心に分布し、おそらく古い時代の帰化種と考えられる。現在も都市部にも少数ながら分布し、健在種と考えられた。

カナヘビ科 Lacertidae

カナヘビ1種が分布する。現在のところ広く見られるので健在種としたが、都市部では生息環境が限定されてきており、減少の傾向にある。

トカゲ科 Scincidae

トカゲ1種が分布し、減少種と判断された。

△トカゲ *Eumeces latiscutatus* (Hallowell) [減少種H]

平地から山地の植被の少ない場所を好み、石垣や荒地に見られる。石のすき間や穴などをすみかにしている。以前はカナヘビとともに広く見られたが、カナヘビに比較して本種の方が減少している。丸山一子氏の調査によると、農村的な環境が比較的多く残された二宮町と座間市では、両種は同程度に分布していたが、市街化の進んだ大和市では明らかにトカゲの方が少なかった(丸山, 1991・1993, 丸山・新井1990)。トカゲの方が衰退している原因として、三島他(1978)は、カナヘビが草むらさえあれば生息できるのに、トカゲは穴などのある複雑な地表面を必要とするためと推測している。

ヘビ科 Colubridae

在来種として7種が記録された。ヘビ類は目撃する機会が少なく、また観察者も少ないので記録が残りにくく、分布や個体数の増減についての信頼できる情報が少ない。そのためにレッドデータ度の評価も困難だが、ここではいずれかの地域で減少したという記載がある種を減少種、他は健在種として扱った。その結果、減少種が4種と判断された。しかし、一応健在種とされた種についても今後の動向に十分注意していく必要がある。

△アオダイショウ *Elaphe climacophora* (Boie) [減少種H]

平地から丘陵地に生息し、しばしば社寺や人家を住処とする。ネズミや鳥類の卵を好んで食べる。かつては、いたる所に普通に見られたが、木造家屋が少なくなり、また人家に生息するネズミ類が姿を消すとともに減少している。特に2m近い大型の個体がめったに見られなくなった(石原, 1993・柴田, 1991)ことは、勢力の衰退を物語っている。現在でも県内には広く分布しているが、以前と比較すると減少しているといえる。座間市では最近姿をみないという話しが各地で聞かれた(丸山, 1993)。

△ヤマカガシ *Rhabdophis tigrinus* (Boie) [減少種H]

首の付近に赤と黄色の模様のあるヘビで、水辺を好み丘陵地の谷戸や、山地の谷川の周辺に生息している。マムシと並ぶ毒ヘビとして知られている。カエル類を好んで食べ、大きなヒキガエルも丸飲みすることができる。現在でも県内では各地に広く見られるが、水辺環境全体の衰退にともなって本種も減少しつつあると考えられる。箱根では10年の間に減少しているという(石原, 1993)。

△シマヘビ *Elaphe quadrivirgata* (Boie) [減少種H]

成体では4本の縦筋が目立つヘビで、河原、林縁など

明るい環境に多い。県内には広く分布しているが、見かける機会が以前と比べて減少していると感じられる。横浜では近年急速に少なくなっている(柴田, 1991)。大和市の聞き取りでは最近急速に減少したとの聞き取りが得られている(丸山・新井1990)。

△ヒバカリ *Natrix vibakari* (Boie) [減少種H]

首筋に黄色い模様のある小型のヘビで、森林の湿った林床に生息する。水辺を好み、オタマジャクシ・ミミズなどをよく捕食する。県内には広く分布している。地味なヘビで、過去の分布状況も明かではないが、減少が指摘されている地域がある。柴田(1968)によると三浦半島では戦前には庭先でも極めて普通だったが激減したという。また、減少の原因として柴田(1986)は、小さな流れがコンクリートで固められたり暗渠化されたことをあげている。

ウミヘビ科 Hydrophiidae

4種が記録されたがいずれも南方からの偶来種なのでここでは扱わない。

クサリヘビ科 Viperidae

マムシ1種が分布し、減少種と判断された。

△マムシ *Agkistrodon blomhoffii* (Boie) [減少種H]

三角形の頭をした胴体が太めのヘビで、平地から山地まで広く分布しているが、特に谷戸のような水辺で見られる機会が多い。毒ヘビとして有名だが、実際の個体数は少なく、見かけることは少ない。川崎では北川(1987)が多摩区、麻生区での確認を報告しているが、聞き取りによると減少しているという。横浜市では各地で昔はいたという話しが聞かれた(柴田, 1991)。大和市、座間市ではかつては広く見られたが最近では数を減らしている(丸山・新井, 1990, 丸山, 1993)。二宮町では、聞き取りによって生息するという情報が得られた12地点の内、5年以上前にいたという地点が7つを占め、また現地調査では1ヶ所も発見されなかった(丸山, 1990)。南足柄市でも激減している(田代, 1989)。このようにマムシは全体的に減少しているといえる。

文献

- 相原宗由, 1990. 中井町の動物. 中井町史, 98-120. 中井町.
 新井一政, 1988. 宮ヶ瀬・中津川流域における両生・爬虫類および魚類. 神奈川県東丹沢地域自然環境調査中間報告, 17-19. 日本自然保護協会.
 後藤好正, 1989. 横浜市の両生類・爬虫類相(予報). 理科部会会報, (33):13-17. 神奈川県高等学校教科研究会理科部会.
 長谷川雅美, 1987. 大雄山杉林の爬虫両生類. 神奈川県指定天然記念物地域動物調査報告書, 27-31. 神奈川県教育委員会.
 長谷川雅美, 1987. 大磯高麗山自然林の爬虫両生類. 神奈川県指定天然記念物地域動物調査報告書, 117-119. 神奈川県教育委員会.
 石原龍雄編, 1992. 箱根の爬虫類. 大涌谷自然科学館. 31 pp.
 環境庁自然保護局野生生物課, 1993. 日本産野生生物目録(脊椎動物編). 80 pp.
 北川徹, 1987. 川崎市の両生・は虫類. 川崎市自然環境調査報告

1, 83-90. 川崎市教育委員会.
 丸山一子, 1990. は虫両生類. 二宮町史自然編, 279-296. 二宮町.
 丸山一子, 1993. 座間市の爬虫類. 座間市の動物, 117-126. 座間市教育委員会.
 丸山一子・新井一政, 1990. 大和市の両生爬虫類. 大和市の脊椎動物, 125-148. 大和市教育委員会.
 松井孝爾・田代道彌, 1964. 丹沢の爬虫両棲類概観. 丹沢大山国立公園学術調査報告書, 355-357. 神奈川県.
 中村一恵, 1977. 三浦半島で捕獲されたアオウミガメ. 横須賀市博物館館報, (23): 33.
 中村一恵, 1980. エラブウミヘビの記録. 神奈川自然誌資料, (1): 84.
 中村一恵, 1981. ミシシッピーアカミミガメの野生化について. 神奈川自然誌資料, (2): 41-42.
 中村一恵, 1982. 相模湾のウミヘビ類, とくにセグロウミヘビについて. 神奈川自然誌資料, (3): 59-62.
 中村一恵, 1985. 神奈川県下における淡水カメ類の目撃および採集記録(1984~1985). 爬虫両生類雑記, 12(5/6): 47-48.
 中村一恵・川瀬ツル, 1976. 三浦半島周辺で捕獲されたウミガメ2種とウミヘビ1種について. 横須賀市博物館館報, (22): 37-40.

柴田敏隆, 1968. 三浦半島の爬虫類相. 横須賀市博物館研究報告(自然科学), (14): 95-102. 横須賀市博物館.
 柴田敏隆, 1986. 鎌倉市の爬虫・両生類相. 鎌倉市文化財総合目録(地質・動物・植物編), 94-108. 鎌倉市.
 柴田敏隆, 1991. 両生・爬虫類. 横浜市陸域の生物相・生態系調査報告書, 216-230. 横浜市公害対策局.
 鈴木博, 1987. 逗子の陸上動物. 逗子市史別編I自然編, 270-274. 逗子市.
 高島春雄・田代道彌, 1962. 箱根の爬虫・両棲類. 神奈川県博物館協会会報, (9): 18-20. 神奈川県博物館協会.
 田代道彌, 1976. 箱根地方産動物目録(爬虫・両生類). 箱根の樹木と自然, 236-239. 箱根樹木園.
 田代道彌, 1989. 動物. 南足柄市史資料編自然, 191-242. 南足柄市.
 富田京一, 1991. 東丹沢におけるタカチホヘビの分布について. 神奈川県立自然保護センター報告, (8): 9-15.
 富田京一・見澤康充, 1990. 神奈川県立自然保護センターの野外施設周辺に生息する爬虫・両生類について. 神奈川県立自然保護センター報告, (7): 11-20.

(浜口哲一)

表9. 神奈川県産爬虫類RD度一覧

科名	和名	学名	帰化	原産地	ステータス	RD度	京浜	三浦	湘南	県央	県北	西湘	丹沢	箱根
カミツキガメ科	カミツキガメ	<i>Chelydra serpentina</i>	※	NA	T	※		※						
イシガメ科	ミシシッピーアカミミガメ	<i>Chrysemys scripta elegans</i>	※	NA	R	※	※	※	※					※
	クサガメ	<i>Geoclemys reevesii</i>	※	In	R	※	※	※	※			※	※	
	イシガメ	<i>Mauremys japonica</i>			L	E	※	※	※			※	※	
ウミガメ科	アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>			L	E		※	※			※		
	アオウミガメ	<i>Chelonia mydas</i>			T			※						
	タイマイ	<i>Eretmochelys imbricata</i>			T			※				※		
オサガメ科	オサガメ	<i>Dermochelys coriacea</i>			T		※							
スッポン科	スッポン	<i>Trionyx sinensis</i>	※	In	L		※	※	※				※	
ヤモリ科	ヤモリ	<i>Gekko japonicus</i>			R	J	※	※	※	※		※		
カナヘビ科	カナヘビ	<i>Takydromus tachydromoides</i>			W	K	※	※	※	※		※	※	
トカゲ科	トカゲ	<i>Eumeces latiscutatus</i>			W	H	※	※	※	※	※	※	※	
ヘビ科	タカチホヘビ	<i>Achalinus spinalis</i>			R	K	※	※	※	※	※	※	※	※
	シロマダラ	<i>Dinodon orientalis</i>			R	J	※	※	※	※	※	※	※	※
	アオダイショウ	<i>Elaphe climacophora</i>			W	H	※	※	※	※		※	※	※
	ジムグリ	<i>Elaphe conspicillata</i>			W	J	※	※	※	※		※	※	※
	シマヘビ	<i>Elaphe quadribirgata</i>			W	H	※	※	※	※		※	※	※
	ヒバカリ	<i>Natrix vivakari</i>			W	H	※	※	※	※		※	※	※
	ヤマカガシ	<i>Rhabdophis tigrinus</i>			W	H	※	※	※	※		※	※	※
ウミヘビ科	マダラウミヘビ	<i>Hydrophis cyanocinctus</i>			T				※					
	クロガシラウミヘビ	<i>Hydrophis melanocephalus</i>			T			※						
	エラブウミヘビ	<i>Laticauda semifasciata</i>			T			※						
	セグロウミヘビ	<i>Pelamis platurus</i>			T			※	※			※		
クサリヘビ科	マムシ	<i>Agkistrodon bromhoffi</i>			R	H	※	※	※	※	※	※	※	